



避難持ち出し袋の確認 (丹波市)

Discussion on emergency bags (Tamba City)

Newsletter

ソフトバンク株式会社のアプリ「つながる基金」で、下記SEEDSのロゴをかざすと簡単にご寄付いただけます。

● Table of Contents Vol.73 (Nov. & Dec. 2019)

- ・ ミャンマー : ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業、百葉箱（気象観測機器）の設置による気象情報理解の促進
- ・ フィリピン : セブ州における学校の防災管理推進支援事業
- ・ バングラデシュ : 災害対応ウェアハウスの効率性強化支援事業
- ・ 日本 : 中山間地域の地域資源を活かした防災担い手育成パイロット事業
- Myanmar : Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township, Enhancing Understanding of Weather Information by Installation of Stevenson Screens and Weather Observation Devices
- Philippines : Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province
- Bangladesh : Enhancement of the Effectiveness of DRR Emergency Warehouses
- Japan : Pilot Project for Human Development Utilizing Local Resources in Tamba City



特定非営利活動法人SEEDS Asia

〒658-0072

神戸市東灘区岡本3-11-30-302

3-11-30-302 Okamoto,

Higashi Nada ku, Kobe, Japan

Tel : 078-766-9412

Fax : 078-766-9413

Email : rep@seedsasia.org

Web : www.seedsasia.org

Facebook : <https://www.facebook.com/SEEDSASIA/>



ミャンマー

ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業

【外務省 日本NGO連携無償資金協力事業】

教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、ハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進しています。

●災害の記録と経験を継承し、未来に活かしていくために

洪水の常習地となっているナバーゴン村を含むレチョン村郡の13村代表者から構成される防災リーダーを対象に、9月から11種類の防災研修を実施してきました。12月1日は、災害の記録と記憶の継承について研修を実施し36名が参加しました。日本では幾多の災害経験から紡がれた先人の想いと英知が有形・無形の伝承ツールを通じて伝えられてきました。こうした伝承ツールがその後のまちの復興や人々の避難行動に寄与してきたのか、室戸台風と師弟愛の像（於：京都市）、関東大震災と震災遭難児童弔魂像（於：東京都）、伊勢湾台風と潮位記録表示（於：三重県桑名市）、阪神・淡路大震災と1.17のつどい／人と防災未来センター／しあわせ運べるように（於：神戸市）などを中心に紹介しました。参加したナバーゴン村小学校の新任教員インジンメイ先生は、「（災害によって）同じ辛い思いを子どもたちがしないために、災害の記録や記憶を伝える様々な方法があることを学びました。特に小さい子どもたちには活字で伝えてもわからないことも多いですが、音楽だったら伝えやすく理解しやすいと感じました。」と感想がありました。



防災リーダーへの研修の様子

●防災教材「河と共に生きる」作成中



作成委員会メンバーとの協議の様子

ヒンタダを流れるエヤワディ河と堤防の歴史と人々の暮らしを次世代に伝える教材「河と共に生きる」の作成委員会メンバー（9つの省庁からの代表者とヒンタダ地区の歴史家や作家が参加）と第一ドラフトを共有し、改善点を協議しました。近々完成予定です。

●レチョン村郡防災リーダーへの初期消火訓練

12月23日～24日は、ナバーゴン村を含むレチョン村郡の防災リーダーを対象とした初期消火訓練を実施いたしました。研修にお越し下さったヒンタダ消防局員はなんと東京消防庁からのお下がり中古消防車に乗ってやってきてくださいました。



消火訓練の様子



ミャンマー

百葉箱（気象観測機器）の設置による気象情報理解の促進

【京都東ロータリークラブ】

●百葉箱及び気象観測機材寄贈式典の開催



百葉箱の説明をするSEEDS Asiaスタッフ

京都東ロータリークラブの皆様より、防災教育並びに学校や地域での災害管理能力向上を目的として、6基の百葉箱と気象観測機材セットをご寄贈いただき、12月1日には記念式典を実施いたしました。12名の方々がナバーゴン村を訪問してくださり、住民や子ども、地域のメンバーとの対話を通じて、9月に設置された機材がどのように使用され、気象の理解促進に役立っているか確認頂きました。こうして、たくさんの方々に支えられていることが、子どもたちの大きな力になります。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。



フィリピン

セブ州における学校の防災管理推進支援事業

【JICA草の根技術協力事業】

学校における災害リスク管理力の向上を目指した取り組みを実践しています。

●パイロット校のマニュアル最終版作成とSDRA調査

セブ州内に10あるパイロット校では、これまで平時の安全点検マニュアルと災害時の災害対応マニュアルの作成に向けて度重なる協議やワークショップ、批評会などをしてきました。これらを現時点での最終版とし事業成果としてまとめるため、各学校を訪問して協議を重ねました。パイロット校との協議の中で、例えば「災害対応チームのうち、AグループとBグループの役割に似ているところがあるのですが、この違いは何ですか？」など、学校側の案に関してSEEDS Asiaから質問を投げかけることで、学校にとってより整理された内容になっていきました。



SDRA調査の様子

また、来る3月の事業終了を視野に入れ、11月から12月にかけて、これまでの取り組みの効果を測るための学校防災力評価（School Disaster Resilience Assessment：SDRA）を実施しました。事業開始時にも同じ調査をおこない、パイロット校を含む各地区3校の傾向や特色を把握するのに役立ちました。今回は事業の取り組みを実践してきたパイロット校でどのような変化があったのかを確認するための調査で、2月（に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響を受け延期が決定）の最終事業報告会（国レベルカンファレンス）で結果を発表するべく、分析を進めています。

●学校防災管理指導チームとのテクニカルミーティング

12月10日と11日は学校防災管理指導チームとのミーティングを開催し、事業終了に向けた①学校防災チーム運営指針の最終化、②パイロット校のマニュアルへの技術的助言、③国レベルカンファレンスの発表に向けた打合せに関する協議をおこないました。③ではビデオプレゼンテーションを通じて参加者の関心を引こう、という意欲的な提案がされ、プレゼンテーション作成のための役割分担が決められました。

●教育省第7地方事務所のベストパートナーとして表彰！



受賞の様子

12月12日、教育省第7地方が1年を振り返って功績のあった学校や教職員、教育省事務所などを表彰するイベントPasidungogにSEEDS Asiaもお呼びいただき、ベストパートナーとして表彰して頂きました。先行事業を含めこれまでのミーティングや本邦研修でSEEDS Asiaのプロジェクトに関わっている各職員の方々もご臨席だったため、それぞれの防災への取り組みについて状況を聞くこともできました。この賞を頂くのは今年で3回目です。これからも教育省とのパートナーシップを発展していけるよう取り組もう、と新たに心に誓う機会となりました。

●教育省第7地方事務所とのミーティング

12月17日、教育省第7地方事務所の所長及び教育支援サービス部長と協議を実施し、事業の中の取り組みの1つである「学校防災の優良事例を表彰する仕組み」について意見交換をしました。既にBrigada Eskwela（新学年度が始まる前に地域の方々、民間企業、学校教職員や児童生徒が一堂に会し学習環境を整備する伝統的な取り組み）や先述のPasidungogという年末行事にて優秀な個人や学校、事務所を表彰する制度が存在する一方、学校防災の優良事例だけに特化したものはまだありません。そこで、これらの既存の制度に学校防災管理という視点を取り入れることをSEEDS Asiaから提案しました。所長及び部長からは、「Pasidungogでは特に受賞理由を発表していないが、SEEDS Asiaとの関わりは学校を評価する上で既に考慮されている。学校や事務所、教職員がSEEDS Asiaの事業に関わることで教育省としての防災の強化に貢献していると捉えることができるし、教育セクターが外部パートナーと協働することも積極的に評価したいためだ」というお声を頂き、2020年度のBrigada EskwelaのモニタリングにSEEDS Asiaの評価視点を取り入れる方向で合意しました。

●セブ州防災管理局新局長との顔合わせ

12月17日、新しく就任したセブ州政府防災管理局の局長を訪問しました。元々OCD（市民防衛局）に所属していた新局長は、就任にあたってSEEDS Asiaの事業について理解し、今後も積極的に関わりたいと思うとおっしゃって下さいました。学校防災管理の推進において地方自治体の理解と協力は不可欠であり、セブ州は多くの学校が存在する有力な地方自治体であることから、事業終了時カンファレンスにもご参列頂き、是非今後の学校防災管理の展開支援に向けたお言葉を頂けるよう、お願いをしました。



災害対応ウェアハウスの効率性強化支援事業

【世界銀行都市強靱化プロジェクト】

ダッカ市職員向け災害対応研修実施を通じ、災害対応ウェアハウスの有効的な運用を促進します。

●シレット市での研修実施と防災コミュニティメンバーとの再会

11月21日、シレット市にて市職員向けの防災研修を実施しました。ダッカ、チッタゴンに継ぎ第3の都市と言われるシレットは、バングラデシュの北東部に位置する人口約250万人の都市で、茶産業で有名です。北方にはダウキ断層が通っており、バングラデシュの中でも特に地震リスクの高い地域といわれています。世界銀行の都市強靱化プロジェクトはシレット市も対象地としていることから、今回北ダッカ市の職員らとともにシレット市を訪問し、設置中の緊急オペレーションセンターの進捗状況を確認するとともに、最高行政官やチーフエンジニアをはじめとする市職員を対象に研修を実施しました。シレット市の職員はとくにコミュニティ防災に関心を示し、活発なディスカッションが行われました。この研修は、北ダッカ市とシレット市の職員がそれぞれの取り組みについて情報交換をし、学び合う大変良い機会となりました。



シレット市での研修の様子



シャオンさん(一番左)とシレット市内の消防署にて

また、シレットでは嬉しい再会がありました。先の草の根事業とともに活動をした、モニプリパラ防災コミュニティの若手メンバー、シャオンさんです。彼は、事業で防災について学び活動をした経験をもとに、その後消防士の道を目指し、試験とトレーニングを経て2019年に採用されシレット市内の消防署に配置されたのでした。モニプリパラコミュニティからは、他にも2人が消防士になってダッカで勤務しています。事業後にこうしたニュースを聞くのは非常に嬉しく、活動を続けて行く力になります。

●世界銀行都市強靱化事業完了

6月よりコンサルタントとして北ダッカ市のゾーン災害対応ウェアハウスの整備と職員の防災知識の向上を支援してきた都市強靱化事業での業務が12月で完了いたしました。本事業では、北南両ダッカ市およびシレット市での職員向け研修（7回の研修を通して累計524人の職員が参加）、各種防火・消火システムを示したビルの模型製作、各種災害対応資機材のハンドブック作成、同事業のドキュメンテーションなどを通して市のサポートをしました。各ゾーンの災害対応ウェアハウスの整備運用、ゾーン災害対応チームの機能化にはまだ時間を要しますが、この一歩に貢献できました。

●ダッカの大気汚染

バングラデシュにも冬が訪れ、ダッカでも気温は15℃前後まで下がりました。日本の冬に比べると穏やかに思えますが、暖かい地域の仕様で建てられた家屋ではとても寒く感じます。そして、冬のダッカで特に大きな問題となっているのが大気汚染で、状況は年々悪化しています。大気汚染の主な原因は、ダッカ郊外に建つレンガ工場、車の排気ガス、インフラ工事といわれています。バングラデシュのレンガ工場数は2013年の約5,000棟から2018年には約8,000棟に増え、2010年に約60万台だったダッカの登録車数は2018年には137万に増えました。SEEDS Asiaは、研修の機会やソーシャルメディアを通してダッカの大気汚染の状況を知らせ健康被害リスクの理解を促したり、マスクの装着を呼び掛けたりしています。



ダッカの朝



日本

中山間地域の地域資源を活かした防災担い手育成パイロット事業

【ひょうごボランティア基金】

丹波市の豊かな自然の恵みと災害からの復興過程で得た教訓を次世代に伝え、災害を生き抜く力を育みます。

●ESD防災キャンプの開催！

11月2日から3日にかけて、丹波市市島町にてESD防災キャンプを開催しました。このイベントは、市島町の2014年の豪雨災害経験を「地域資源」として再定義し、その経験に基づき未来を担う「人づくり」に活かそうという趣旨のものです。実施に際しては地元住民の方々と春ごろから協議を重ね、いかに参加者に丹波のよさ＝都市部とは異なる安全なまちづくりのアプローチを示し、実際の災害時の困難な生活を想像するための体験学習を提供するかについて企画を進めてきました。



野菜収穫

このイベントには関西圏から4組、お子様は0歳から中学生までの参加者がお越し下さいました。それぞれ、防災や自然体験などに高い意識をお持ちで、運営者側も参加者に助けられるシーンが多々ありました。避難持ち出し袋の中身確認では、食べ物が豊富な家庭もあれば便利な山登りの道具を持っている家庭もあり、それぞれの特徴が興味深く、情報交換にもなりました。また、非常食調理の後には子ども達が仲良く遊ぶ横で地元住民の方々と参加者がとても熱心に語り合っており、丹波市がシティプロモーションとして目指している人と人との交流が実現した瞬間でした。



助け合いながら非常食づくり

災害やまちづくりについて勉強をするだけではなく、地域住民の方々が竹の器づくりや地元の名産品を差し入れして下さいしたほか、山歩きでは栗などの木の実を集めるなど、丹波の素晴らしさを子ども達も実感してもらえたようでした。保護者の方々も「丹波市の皆さんのやさしさに触れられて本当に良い体験となった」など、ポジティブな感想を下されました。

キャンプの詳細については丹波市スタディツアーの[ウェブサイト](#)にて報告をしていますので、是非ご覧の上、2020年度の開催をご検討下さい。

●冬のイベント開催

12月15日は市島町北岡本自治会の植樹祭、22日はしめ縄づくり体験、30日は餅つきイベントが開催されました。植樹祭は北岡本自治会が主催したイベントですが、SEEDS Asiaが広報をお手伝いしたところ、上述のESD防災キャンプの参加者がリピーターとして参加して下さい、しめ縄づくりと餅つきイベントに2週連続で来て下さった方もおられました！餅つきイベントは雨の中でしたが50名以上が参加して下さいました。

これらのイベントの集客に際して、なるべくSEEDS Asiaから地元住民の方にそのノウハウが伝わるように調整も進めました。また、それぞれのイベントで連絡方法を確立することや人数制限を設けることなど、反省を活かし、次年度では改善して、よりよいイベント・スタディツアーを実施したいと考えています。



子ども達も餅つきに参加



Myanmar

Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township

【Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA)】

● Lessons Learnt and Knowledge from Past Disasters for the Future

A series of 11 training sessions have been taken place since September, for the DRR leaders from representatives of 13 flood-prone villages in Leik Chaung Village Tract including Nabekone Village. On 1st December, 36 members participated in training about recording and passing down past disasters. In Japan, various tools have been utilised in passing down lessons learnt and knowledge from past disasters to succeeding generations, whether tangible or intangible those may be. In the training, those tools' contribution to disaster recovery later on, or changes in people's attitudes in evacuation from hazards was examined. The tools introduced included: statues of affected people, signage of recorded inundation levels, gatherings, a disaster museum and a song. A teacher newly assigned in Nabekone Village Elementary School attended the training and expressed her impression: "I came to believe there are many ways of passing down disaster records and memories in order not to let our children encounter the same difficulties by disasters. I found out that music is an easy means to make children understand something that they cannot understand through letters."



DRR leaders training

● Meeting with Task Force to Make a Booklet "LIVING WITH RIVERS"



Meeting with the production committee

Initial draft of "Living with Rivers" was shared and improvements were discussed among the members of the production committee which consists of representatives from nine government agencies, historian and writer. The "Living with Rivers" is a teaching material to pass down the history of development of dikes and people's lives surrounding the Ayeyawady River. It is expected to be complete soon!

● Fire Extinguishing Training

Initial fire extinguishing training for the DRR leaders of Leik Chaung Village Tract including Nabekone Village was implemented from 23rd to 24th December. The Fire Services Department of Hinthada drove to Nabekone Village on their fire truck that used to belong to Tokyo Metropolitan Fire Department.



Fire extinguishing training



Myanmar

Enhancing Understanding of Weather Information by Installation of Stevenson Screens and Weather Observation Devices

【Rotary Club of Kyoto-East】

● Launching Ceremony of Stevenson Screens for Weather Observation!



SEEDS Asia staff explaining about Stevenson screen

On 1st December, a launching ceremony was held for the six sets of Stevenson screens and weather observation devices donated by Rotary Club of Kyoto-East to Nabekone Village. These devices are expected to serve as a tool for disaster education and increase the disaster management capacity of Nabekone Village and Nabekone Village Elementary School. Visitors from Japan went to Nabekone Village and discussed with local residents and children, to observe how the devices installed in September are currently used for enhanced understanding of climate. Being supported by many people is great learning for the children. Thank you very much for the invaluable support!



Philippines

Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province

【JICA Grassroots Technical Cooperation Project】

●Manual Finalizing at Pilot Schools and SDRA Survey

The ten Pilot Schools in Cebu Province have discussed many times in meetings, workshops and critiquing sessions to develop their disaster mitigation and preparedness manual and disaster response manual. To finalize them as project outputs, SEEDS Asia has visited Pilot Schools so that their final inputs will be reflected in the manuals before the project completion. In the course of discussions, questions such as “Among the School Disaster Response Team composition, what are the differences between Team A and Team B?”, for example, were asked to the schools by SEEDS Asia to have a clearer view of the contents of the manuals.



SDRA survey

Another activity that took place in Pilot Schools and other schools in the Pilot cities/municipality was the conduct of School Disaster Resilience Assessment (SDRA) survey. The same assessment was conducted at the beginning of the project, and this time the same schools were visited in order to compare the results and analyze what changes Pilot Schools and other schools have undergone during the project. The results will be presented during the final National Conference in February (but recently postponed as a precautionary measure against Novel Corona Virus).

●Technical Meeting with SDRRM-IT

On 10th and 11th December, a meeting with SDRRM-IT was held. Discussion topics were 1. Finalization of School Disaster Risk Reduction and Management Team Operations Guideline, 2. Technical inputs to manuals of Pilot Schools, and 3. Presentation at the National Conference in February. The presentation for discussion topic 3 will be a video presentation to attract attention of the Conference participants, and roles for preparation were determined.

●Awarded as a Best Partner by DepEd Region VII



SEEDS Asia awarded as a Best Partner

On 12th December, SEEDS Asia was invited to an event called “Pasidungog” where Department of Education (DepEd) Region VII awards schools, DepEd offices and teachers for their remarkable contribution through the year. SEEDS Asia was awarded as a Best Partner for the third time. The event was also a good venue of catching up with DepEd officials who have been involved in SEEDS Asia’s first and second phase projects, and it was indeed very fruitful to hear from them how they are still working hard on DRR. Being awarded also is a great energizer for the team, and we are determined to strengthen our partnership with DepEd even further.

●Meeting with DepEd Region VII Key Persons

On 17th December, SEEDS Asia visited DepEd Region VII Office to discuss with their Regional Director and Chief of Education Support Services Division about one of the project’s initiative of “establishing a mechanism to award good practices of SDRRM”. DepEd already has several related initiatives including Brigada Eskwela (a traditional activity where school personnel, students, community and private companies gather before the start of a new academic year to enhance the learning environment) and abovementioned Pasidungog, however, there is no particular award system that recognizes solely SDRRM. With this, SEEDS Asia suggested that some SDRRM components be included in those existing mechanisms. The Regional Director and the Chief mentioned: “Being with SEEDS Asia’s initiatives is definitely a counting criteria when we evaluate schools. DRRM is a very important aspect that DepEd puts emphasis on, and partnership between the education sector and outside resources deserves high evaluation”. It was agreed that SEEDS Asia’s viewpoint in evaluating SDRRM practices will be incorporated in the next Brigada Eskwela.

●Meeting with the New Chief of Cebu Provincial Disaster Risk Reduction and Management Office

On 17th December, SEEDS Asia paid a visit to the new Chief of Cebu Provincial Disaster Risk Reduction and Management Office, Mr. Neil Sanchez, who was formerly with Office of Civil Defense. He expressed his understanding of and interest in SEEDS Asia’s projects and mentioned willingness for further collaborations. Understanding and cooperation by local governments are vital in school disaster risk reduction and management, and Cebu Province being the biggest government with many schools, was invited to the Project’s National Conference.



Bangladesh

Enhancement of the Effectiveness of DRR Emergency Warehouses 【World Bank Urban Resilience Project】

●DRR Training in Sylhet and Reunion with DRR Community Member

21st November, SEEDS Asia conducted a whole day DRR training for officials in Sylhet City Corporation (SCC). Sylhet, the 3rd biggest city in Bangladesh after Dhaka and Chittagong, is located in Northeast part of the country with about 2.5 million people. There is a Dauki fault running north of the region and Sylhet is categorized in an earthquake high risk area. Since the Urban Resilience Project includes SCC in its target area, we, along with Dhaka North City Corporation (DNCC) officials, made a trip to Sylhet to check the progress of setting up an emergency operation center and to conduct a training. 36 officials including CEO, Chief Engineer, and other department heads participated in the training and discussed various issues on DRR such as law framework, safe building construction, and community based DRR. It was a great opportunity for the both city corporation DNCC and SCC to exchange information and learn from each other.



Training in Sylhet City Corporation



With Mr. Shawon (leftmost) at a fire station in Sylhet

There was a happy reunion in Sylhet. We met Mr. Shawon from Monipuripara community, one of our DRR communities in Dhaka that we worked with in our previous JICA grassroots project. With his experience of learning and working on DRR, Mr. Shawon chose a path to become a firefighter. After exams and trainings, he finally joined Bangladesh Fire Service and Civil Defence in 2019 and was placed in Sylhet city. Monipuripara community has produced 2 more firefighters. Such inspiring story encourages us and keeps us going.

●Completion of World Bank Urban Resilience Project Assignment

Assignment under Urban Resilience Project which SEEDS Asia assisted DNCC as a consultant since June 2019 has been completed. In the assignment, we contributed to the city's strategy to establish emergency warehouses and zone disaster management teams by various activities such as trainings for city officials in each zone under DNCC and Dhaka South City Corporation (DCSS) as well as SCC (total 17 trainings conducted and 524 officials attended), developing fire safety building models, making equipment handbook for the emergency warehouses, documentation of the project, etc. It will take some time to fully operationalize the emergency warehouses and the team, however, zone offices took a big step forward with SEEDS Asia and they are now ready to take further steps.

●Air Pollution in Dhaka

Winter has come in Bangladesh as well and temperature has gone down to as low as 15 degrees Celsius. It is air pollution that becomes more serious in winter in Dhaka and the situation has worsened every year. The main reasons are said to be brick kilns, vehicular emission, and construction sites. The number of brick kilns in Bangladesh has increased from 5,000 in 2013 to 8,000 in 2018 and the number of vehicles in Dhaka jumped from 600,000 in 2010 to 1.37 million in 2018. SEEDS Asia disseminates the issue and its health impact as well as promotes taking measures such as to wear masks through trainings, DRR community network, as well as social media.



Morning in Dhaka



Japan

Pilot Project for Human Development Utilizing Local Resources in Tamba City 【Hyogo Voluntary Fund】

●ESD-DRR Camp

The ESD-DRR (Education for Sustainable Development – Disaster Risk Reduction) Camp was held on 2nd to 3rd November. This event intended to redefine the disaster experience of Ichijima-cho, Tamba City as a local resource, and use it for capacity building of future generations. For this to happen, many discussions with the local residents took place in order to present a different approach from cities to safe community development and provide experiential learning.

Four families, with their kids aged from zero to junior high school, participated in this event. All of them are highly conscious in disaster risk reduction and/or outdoor experiences. During a session to discuss emergency bags, a family presented their own bag with lots of food, and another with practical mountaineering items. The variety resulted in an active discussion on what really are useful in disaster situations. After eating emergency food, adult participants were enthusiastically discussing with the local residents while their kids were playing around. This was really the “interaction” that Tamba City Government is looking into as their City Promotion policy.



Harvesting vegetables



Helping each other to cook emergency meal

The contents of sessions were not only for learning disasters and community development, but for letting the participating children feel the wonderful nature that Tamba offers. Bamboo bowl making, local food, picking nuts in the woods, etc. made them enjoy throughout their stay. Their parents shared their positive impressions such as “It was an amazing experience to be touched by the kind people in Tamba”.

Detailed report of the Camp event can be found on [this page](#). Please check it out and hope to see many participants in the Camp in 2020.

●Winter Events

There were three events in December: tree planting by Kita-okamoto Residents Association on 15th, sacred rope (shimenawa) making on 22nd, and rice pounding on 30th. Tree planting as an event by the local organization, for which SEEDS Asia assisted in PR, was able to accommodate repeating visitors who had joined the ESD-DRR Camp. Another participant joined two weeks in a row in sacred rope making and rice pounding! Rice pounding was done in a rainy weather but over 50 people joined.

For these events, SEEDS Asia also coordinated with the local residents in PR, so that in the future they will be able to handle posting event information independently without SEEDS Asia's assistance. Through these events in November and December, many points for improvements were suggested and acknowledged for smoother event operation. Based on the learning, we shall look into more efficient events and study tours.



Kids play a big role in rice pounding event